



タイトル「**2023年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4603		
科目名	ゼミナールⅢ		
担当教員	福田 充		
対象学年	4年	開講学期	前期
曜日・時限	水 5		
講義室	1210	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E[学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP2-B[自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢] 自己の存在意義を知り、自らを高め続けようと努力することができる。 DP4-I[理解力・分析力] 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 DP5-J[創造的挑戦力・達成力] コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結び付けることができる。 DP6-K[表現力・対話力] 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 DP7-C[他者理解・倫理観・公共心] 人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。 DP7-L[協働力・牽引力] 集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 DP8-M[省察力] 知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 B1 自己啓発－10% C1 倫理的思考・社会認識－10% E1 学識と専門技能－20% I1 理解・分析と読解－10% J1 継続的学修基盤 K1 ライティング・コミュニケーション－20% L1 チームワーク－10% M1 統合的・応用的学修－10%		
教員の実務経験	2005年から内閣府内閣官房の「日本のテロ対策の在り方について委員会」などの委員として日本のテロ対策やミサイルなど国民保護体制の構築に関する実務に関与してきました。また2007年から埼玉県「危機・防災懇話会」委員として自治体行政における災害対策やテロ対策の構築のための実務に関与しました。その他にも政府や官庁、自治体の災害対策、テロ対策、国民保護などに関する委員会委員を歴任して、日本の危機管理体制の構築に関わってきました。現在も総務省消防庁ではテロ対策など国民保護についての懇話会で、厚生労働省では新型インフルエンザ委のパンデミックについての有識者会議や委員会で、神奈川県国民保護情報ネットワークでは研究者メンバーとして、行政や自治体、ならびに企業など多様なステークホルダ		

	ーと連携しながら日本の危機管理体制の構築に関わっています。こうした実務経験をもとに、講義を行います。（第1回～第15回）	
成績ターゲット区分	■能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期～4 定着期	
科目概要・キーワード	■科目概要 危機管理学に関する卒業論文を制作するために実施するゼミナールの演習において、第3段階として、実際の卒業論文のための実証研究と調査の実施段階に入ります。自らの卒業論文テーマに則して、問題意識を醸成し、その研究対象と研究方法を確立した上で、実際の社会調査を実施します。社会調査を実施するために仮説を構築し、その仮説を検証するための最適な調査計画を確立し、社会調査の調査票を作成し、社会調査を実施します。その社会調査データを分析し、その結果を卒業論文として執筆します。 授業形態は演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード： リスクコミュニケーション、危機管理学、社会調査、統計分析	
授業の趣旨	■副題 卒業論文の執筆・作成のための社会調査の実施 ■授業の目的 卒業論文の執筆・作成のために、テーマを決定し、問題意識を熟成させ、研究対象と研究方法、仮説を確立することで、社会調査を実施し、その調査データ分析をもとに、卒業論文の執筆・作成を開始する。 ■授業のポイント 卒業論文の制作のための個人研究計画を確立するために、受講生全員で発表し、議論を繰り返すことにより、よりよい研究計画を確立します。	
総合到達目標	卒業論文を執筆・作成する作業として、この演習において個人研究テーマを決定し、その研究のための研究対象と研究方法を確立し、先行研究を収集することで独自性のある研究手法と検証すべき仮説を確立し、それにもとづいて社会調査を実施し、調査データ分析をもとに、卒業論文の執筆を開始することを到達目標とする。 ・危機管理学に関する専門分野の理論知と実践知を獲得し利用することができる。 ・危機管理学における自己の社会的責任を知り、自らを高め続ける努力することができる。 ・危機管理学に関して自らの置かれた状況、所属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。 ・文章表現、数値データを適切に扱い、情報収集、分析と加工を行い、課題解決につなげることができる。 ・文章と口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に伝達することができる。 ・人間行動に関する考察に取り組み、社会的存在としての自己の行動原理を獲得することができる。 ・集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 ・知識と経験を関連付け学修成果を活用できる状態に高め、新しく複雑な状況に応用して課題解決につなげることができる。	
成績評価方法	■ゼミナール・演習内で毎回発表する卒業論文計画レジュメ（100%） ：適用ルーブリック B1・C1・E1・I1・J1・K1・L1・M1 ゼミナール履修生が全員毎回、演習のスケジュールに合わせて毎回卒業論文に関するレポート、レジュメを発表します。 社会調査を実施するにあたり、使用するアンケート調査票の作成、社会調査の実施、データ分析の実施についても評価します。 （評価の観点） 卒業論文における個人研究計画レジュメを作成し、各自が毎回発表を行います。その研究テーマと研究内容、研究計画の立て方の厳密さ、的確さと、プレゼンテーションの手法のレベルを評価します。 （フィードバックの方法） 各自の研究発表後に、授業内で評価・議論を行います。	
履修条件	当該ゼミナールの履修を志望したものに対する入室試験を、エントリーシート、面接、成績評価（GPA）により実施し、合格したものが履修できます。	
履修上の注意点	危機管理学におけるリスクコミュニケーションについて社会調査による実証研究を卒業論文において実施する意欲のあるものの履修を望みます。	
授業内容	回	内容

1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施し、卒業論文を執筆、作成するにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。まず卒業論文執筆、作成にむけたスケジュールと作業内容を確認し、ガイダンスを行います。ゼミナールでは担当教員のこれまでの実務経験を活かしながら研究指導を行います。こうした社会での実務と研究活動がどのように関連してくるかを説明します。担当教員の实務経験に基づいた演習を展開します。(B1、C1、E1、I1、J1、K1、L1、M1) ③予習(120分) 卒業論文執筆と作成のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、研究テーマの設定について検討し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。 ④復習(120分) 卒業論文執筆、作成を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、論文の執筆作業を行う。
2	①授業テーマ 問題意識を醸成する ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施し、卒業論文を執筆、作成するにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。まず卒業論文の研究を実施するための問題意識を整理します。担当教員の实務経験に基づいた演習を展開します。(B1、C1、E1、I1、J1、K1、L1、M1) ③予習(120分) 卒業論文執筆と作成のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、問題意識を強化し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。 ④復習(120分) 卒業論文執筆、作成を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、論文の執筆作業を行う。
3	①授業テーマ 研究対象の設定 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施し、卒業論文を執筆、作成するにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。卒業論文で研究の対象とする事象、社会問題を設定し、その研究対象について資料を収集し、研究活動を進めます。担当教員の实務経験に基づいた演習を展開します。(B1、C1、E1、I1、J1、K1、L1、M1) ③予習(120分) 卒業論文執筆と作成のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、研究対象のよりよい選定について検討し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。 ④復習(120分) 卒業論文執筆、作成を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、論文の執筆作業を行う。
4	①授業テーマ 先行研究の収集と整理 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施し、卒業論文を執筆、作成するにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。卒業論文のテーマに関連する先行研究を収集し、整理し、論文の骨子を固めます。担当教員の实務経験に基づいた演習を展開します。(B1、C1、E1、I1、J1、K1、L1、M1) ③予習(120分) 卒業論文執筆と作成のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、先行研究を乗り越えるための独創性について検討し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。 ④復習(120分) 卒業論文執筆、作成を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、論文の執筆作業を行う。
5	①授業テーマ 研究方法・調査方法の確定 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施し、卒業論文を執筆、作成するにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。卒業論文で実施する研究方法、調査方法を選定し、詳細を確定します。担当教員の实務経験に基づいた演習を展開します。(B1、C1、E1、I1、J1、K1、L1、M1)

	③予習（120分） 卒業論文執筆と作成のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、よりよい研究方法、調査方法について検討し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。 ④復習（120分） 卒業論文執筆、作成を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、論文の執筆作業を行う。
6	①授業テーマ 仮説の構築 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施し、卒業論文を執筆、作成するにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。卒業論文の柱ともなる仮説について、理論仮説と作業仮説の両方を構築します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。（B1、C1、E1、I1、J1、K1、L1、M1） ③予習（120分） 卒業論文執筆と作成のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、理論仮説と作業仮説について検討し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。 ④復習（120分） 卒業論文執筆、作成を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、論文の執筆作業を行う。
7	①授業テーマ 社会調査実施のための準備 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施し、卒業論文を執筆、作成するにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。研究方法、調査方法において確立した手法をもとに、社会調査の準備と検討を行います。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。（B1、C1、E1、I1、J1、K1、L1、M1） ③予習（120分） 卒業論文執筆と作成のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、よりよい社会調査実施方法を具体的に検討し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。 ④復習（120分） 卒業論文執筆、作成を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、論文の執筆作業を行う。
8	①授業テーマ 調査票の作成 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施し、卒業論文を執筆、作成するにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。社会調査で実施するアンケート調査票、ヒアリング調査票などの調査票を作成します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。（B1、C1、E1、I1、J1、K1、L1、M1） ③予習（120分） 卒業論文執筆と作成のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、よりよい調査票を作成し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。 ④復習（120分） 卒業論文執筆、作成を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、論文の執筆作業を行う。
9	①授業テーマ 社会調査の実施 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施し、卒業論文を執筆、作成するにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。卒業論文の基礎となるデータを収集するための社会調査を実施します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。（B1、C1、E1、I1、J1、K1、L1、M1） ③予習（120分） 卒業論文執筆と作成のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、問題意識を強化し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。 ④復習（120分） 卒業論文執筆、作成を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、論文の執筆作業を行う。
10	①授業テーマ 調査票の回収と編集 ②授業概要

	危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施し、卒業論文を執筆、作成するにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。社会調査を実施したのち、調査票を回収し、調査票チェック、カラム表の作成などを実施します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。（B1、C1、E1、I1、J1、K1、L1、M1） ③予習（120分） 卒業論文執筆と作成のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、調査実施後の作業の方法について検討し、社会調査実施後のデータ分析のために必要な作業を進める。 ④復習（120分） 卒業論文執筆、作成を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、論文の執筆作業を行う。
11	①授業テーマ 調査データの入力 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施し、卒業論文を執筆、作成するにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。検討したカラム表、データ入力方法にもとづいて回収した調査票から調査データを入力し、生データを作成します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。（B1、C1、E1、I1、J1、K1、L1、M1） ③予習（120分） 卒業論文執筆と作成のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、調査データ入力作業について検討し、社会調査後のデータ分析のために必要な作業を進める。 ④復習（120分） 卒業論文執筆、作成を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、論文の執筆作業を行う。
12	①授業テーマ 単純集計出力 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施し、卒業論文を執筆、作成するにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。社会調査データを分析し、単純集計結果を出力し、調査の単純集計の結果について考察します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。（B1、C1、E1、I1、J1、K1、L1、M1） ③予習（120分） 卒業論文執筆と作成のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、単純集計結果の使用と検討、解釈について学び、社会調査結果の検討のために必要な作業を進める。 ④復習（120分） 卒業論文執筆、作成を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、論文の執筆作業を行う。
13	①授業テーマ 多変量解析 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施し、卒業論文を執筆、作成するにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。社会調査データについて、多変量解析を実施することにより、構築した作業仮説と理論仮説が検証されたかどうかを考察します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。（B1、C1、E1、I1、J1、K1、L1、M1） ③予習（120分） 卒業論文執筆と作成のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、多変量解析の手法について再度復習し、社会調査データ分析結果を論文に活かすための作業を進める。 ④復習（120分） 卒業論文執筆、作成を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、論文の執筆作業を行う。
14	①授業テーマ 論文の執筆・作成 ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施し、卒業論文を執筆、作成するにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。社会調査データ分析結果をもとに、卒業論文の執筆・作成を開始します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。（B1、C1、E1、I1、J1、K1、L1、M1）

	③予習（120分） 卒業論文執筆と作成のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、社会調査データ分析の結果を概観して、卒業論文執筆のための方針を検討する。 ④復習（120分） 卒業論文執筆、作成を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、論文の執筆作業を行う。
15	①授業テーマ まとめ・総括と振り返り ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施し、卒業論文を執筆、作成するにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。卒業論文執筆、作成のために実施してきたこれまでの作業について振り返り、総括します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。（B1、C1、E1、I1、J1、K1、L1、M1） ③予習（120分） 卒業論文執筆と作成のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、卒業論文の執筆、作成に活かします。 ④復習（120分） 卒業論文執筆、作成を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、論文の執筆作業を行う。
関連科目	■演習系科目 「危機管理基礎演習Ⅰ（RMGT 2601）」・「ゼミナールⅠ（RMGT 4601）」・「ゼミナールⅡ（RMGT 4602）」・「ゼミナールⅣ（RMGT 4604）」 ■講義科目 「危機管理学概論Ⅰ（RMGT 1301）」，「リスクコミュニケーション論（RMGT 1304）」
教科書	福田充編（2012）『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』（北樹出版）。 福田充（2010）『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』（北樹出版）。
参考書・参考URL	福田充（2022）『リスクコミュニケーション～多様化する危機を乗り越える』（平凡社新書）。 福田充（2022）『政治と暴力～安倍晋三銃撃事件とテロリズム』（PHP新書）。 福田充（2010）『テロとインテリジェンス～覇権国家アメリカのジレンマ』（慶應義塾大学出版会）。 福田充（2009）『メディアとテロリズム』（新潮新書）。その他は講義中に適宜紹介します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 火曜日・金曜日昼休み時間。それ以外の時間については、メール等で事前にアポイントメントをとることにより研究室で対応します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント25%：パブリックセキュリティ25%：グローバルセキュリティ25%：情報セキュリティ25% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学70%：法学30%

